



著者プロフィール

矢地由紀子（やち・ゆきこ）

昭和40年3月30日、石川県金沢市に生まれる。
平成9年、「畦」（上田五千石主宰）入会。
同10年、「かなえ」（本宮鼎三主宰）創刊とともに入会。
同12年、「萌」（三田きえ子主宰）創刊とともに入会。
同13年より北國新聞社俳壇（坊城中子・能村研三選）に投句。
同15年「萌」新人賞受賞。同24年準結花賞受賞。
現在、「萌」同人、俳人協会会員。

〈句集『白嶺』より転載〉〈2013年3月25日時点〉

『白嶺』

（自選15句）

矢地由紀子

愛鳥曰すこし殖えたる児の喃語
固茹の黄身はつこりと春立つ日
雪中のさみどりの菜を束ねけり
天心を無心に指せる冬身かな
犀川の空ひろければ遠青嶺
おうおうと冬松籟の閑所あと
清秋の晴天に父逝きませり
栃葉子の無銘がよろし秋風裡
蟹ゆでて湯気まで赤し年の市
一朵二朵送りて雲の秋深む
椀満たす加賀金澤の根白草
弥陀の子と思ふ蜘蛛の子吹かれけり
御文やも知れぬ堂宇の落し文
けふのこと父の蟻と語らひぬ
白嶺は水を起りぬ花暮浦